

## 特集「仮想化時代の情報セキュリティと運用技術」の 編集にあたって

櫻田 武嗣<sup>1,a)</sup>

本特集号は「インターネットと運用技術 (IOT) 研究会」が中心となって企画、編集を行ったものである。

コンピュータの分野においては様々な技術が日々開発され利用されている。仮想化の技術もその1つで、古くはメモリ空間を実際のハードウェアよりも多く見せる仮想メモリなどから始まり、現在はハードウェアの仮想化やネットワークの仮想化など仮想化されるものは多岐にわたる。これらの仮想化技術を利用したクラウドサービスの展開も始まっており、いっそうシステムは複雑化し、技術面だけでなくセキュリティについても考慮していく必要がある。またインターネットが社会基盤に深く入り込み、マルウェアや標的型攻撃による情報漏洩などにより、企業や国家に対して多大な損壊を与えることがある。これらの対策として技術面、運用面での対策が提案されてはいるが、攻撃側の技術も日々進化しており、完全に組織を守り切ることは困難な状況となっている。本特集号では、仮想化時代における新しいサービスの研究、開発、運用技術等に関連する諸問題に関する論文を掲載することにより、ネットワークシステム等に関連する様々な運用技術の発展に寄与することを目指した。

本特集号には15編の論文が投稿され、16名の委員から構成される特集号編集委員会を中心に査読が進められた。編集委員会には、2013年末に本特集号と同様のテーマで開催された第6回インターネットと運用技術シンポジウム (IOTS2013) のプログラム委員経験者を迎えることにより、テーマの連続性を強化した。今回は特に理論中心ではなく実践の中で問題解決を図っており、他の環境においても有益であると考えられる物を積極的に評価する方針とし、これまでIOT研究会が企画した特集号同様、指導的査読を徹底し、論文誌ジャーナル編集委員会作成の「べからず集」を尊重するなど、できる限り丁寧な査読を行うことを心がけた。その結果、7編の論文を採録するに至った。既存の計算機・ネットワーク上だけでなく仮想計算機・仮想ネットワークの運用にも応用可能な研究やそれらの上で運用されるであろうシステムのセキュリティに関する研究

等について論じられた優れた論文を掲載できた。

最後に、本特集号を企画する機会を与えていただいた学会各位に感謝する。本企画の立案にあたり研究会主査、前回の特集号編集委員長をはじめとするIOT研究会の方々には多大なご協力をいただき感謝する。また本特集号に関心を寄せ、優れた論文を投稿していただいた著者の方々に感謝する。ご多忙の中、手間も時間もかかる指導的査読にご協力いただいた査読者各位、論文査読や編集の過程で貴重な助言をいただいた副編集委員長をはじめとする編集委員各位に感謝する。不慣れな編集作業をスケジュールどおりに進めるためご尽力いただいた学会事務局の方々に感謝する。本特集が今後の技術革新に役立つことを期待する。

「仮想化時代の情報セキュリティと運用技術」特集号編集委員会

- 編集長  
櫻田武嗣 (東京農工大学, 論文誌ジャーナル編集委員)
- 副委員長  
齊藤明紀 (鳥取環境大学)
- 編集委員 (五十音順)  
安東孝二 (株式会社 mokha)  
石島 悌 (大阪府立産業技術総合研究所)  
今泉貴史 (千葉大学, 論文誌ジャーナル編集委員会  
ネットワークグループ副査)  
柏崎礼生 (大阪大学)  
北口善明 (金沢大学)  
坂下 秀 (アクタスソフトウェア)  
佐藤 聡 (筑波大学)  
土井裕介 (東芝)  
中村 豊 (九州工業大学, 論文誌ジャーナル編集委員)  
林 治尚 (兵庫県立大学)  
榊田秀夫 (京都工芸繊維大学)  
松本直人 (さくらインターネット)  
宮下健輔 (京都女子大学)  
山井成良 (東京農工大学, インターネットと運用技術  
(IOT) 研究会主査)

<sup>1</sup> 東京農工大学総合情報メディアセンター  
Information Media Center, Tokyo University of Agriculture  
and Technology, Koganei, Tokyo 184-8588, Japan

a) take-s@cc.tua.ac.jp